

2020年10月30日 6面

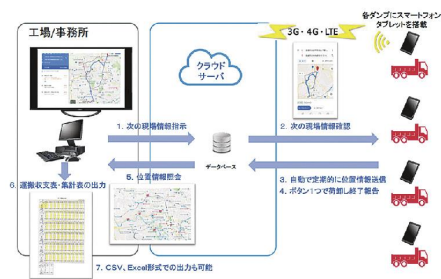
文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

日本道路東北支店／ダンプ運行をタブレットで管理／宮城県岩沼市でシステム試行



運転手〈右〉にタブレット端末を手渡す事務職員

日本道路東北支店は、宮城県岩沼市のアスファルトプラント「仙台南アスコン」で同社が提案したダンプ運行管理システム「ND-LINK」を試行運用している。衛星利用測位システム（GPS）で取得したダンプの位置情報を活用し、タブレットを介したナビゲーションシステムを構築＝システム図。手作業で進めている運搬経路の地図印刷・配布を省略し、運送状況の把握や到着時間を予測することも可能になる。運転手の負担軽減やプラントの稼働率向上に役立てる。



ND-LINKは同社が提案し、システムソリューションプランニング（仙台市宮城野区）が開発。背景には東日本大震災後のダンプ運用の過密スケジュールがある。限られた台数を効率的に運用し、運転手や事務所職員の残業時間を減らしたいとの思いがきっかけになった。

日本道路東北支店は昨年10月からND-LINKの試行運用を開始。各現場に割けるダンプの台数を1現場当たり1台削減できることが分かった。位置情報によってダンプの戻り時間が予想しやすくなり、稼働計画を立てやすくなる。プラントの燃費を5%改善する効果も確認した。

プラントで生成されるアスファルト合材の配送状況に関する問い合わせにはスムーズに回答。運転手の高齢化も進む中、タブレット画面に表示されたボタンを押すだけでND-LINKの運用が始まる操作の簡易性も実現した。

日本道路東北支店の三塚利彦製販部長は「人手不足で現場にダンプを集めるのに苦労している。ND-LINKでダンプ運用の効率化を図りつつ、顧客への配送状況通知など新たな活用方法も模索しながら運用していきたい」と話した。今後、同支店発のモデルケースとして全社での本格運用を検討する。

仙台南アスコンは日本道路を代表企業とする「仙台南アスコン共同企業体」が運営。大林道路、ガイアート、鹿島道路も参画している。アスファルトプラントと建設廃材中間処理施設で構成。プラントで運用されるダンプの数は通常時が20台程度で、繁忙期などピーク時には約50台となる。現在、約10台でND-LINKの運用を試行している。

記事ID : 3202010300603

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます